

ほほえみ新聞

THE Yasuragi

<http://m-yasuragi.com>

ホームページもご覧下さい

2018年5月発行(第58号)

編集:やすらぎの園 広報部

E-Mail : nagano@m-yasuragi.com

所在地 : 〒388-8019

長野市篠ノ井杵淵 213-4

TEL026-293-2600 Fax026-293-2959

ユニットケア推進3カ年計画

ユニットリーダー研修実地研修施設 登録に向け最終年度



あおぞらユニット玄関(西館)



共用トイレの設え(西館)

平成二十八年度より進めている「ユニットケア推進三カ年計画」。平成三十年度がスタートし、いよいよ計画の最終年度を迎えました。この間、ユニットケア推進会議が中心となり、生活リズム・情報共有・システム・職員教育の各要素において見直しと新たな取り組みが進められ、ご入居者に寄り添い、「その方らしい暮らしのお手伝い」を実践するための「ケアの可視化と言語化」に努めてきました。今年度は、こうした取り組みを更に押し進めるとともに、三年間の集大成として、これらの四つの要素を有機的に結び付けながら、より質の高い「ユニットケア」を実践していきます。そして平成三十一年四月、ユニットリーダー研修実地研修施設(※左参照)への登録申請を目指します。

【ユニットリーダー研修実地研修施設とは】
ユニットケア実践の要となるユニットリーダーを育成するための研修(一般社団法人日本ユニットケア推進センターが主催)において実地研修を行う施設。様々なユニットケアに関する基準をクリアしたいわば「ユニットケアの先進施設」と言えます。全国に六十六施設ありますが、長野県内は二施設にとどまっております。北信地域にはまだありません。

年度初めの挨拶

平成三十年度事業始業式より

おはようございます。いよいよ本日、平成三十年度・事業開始の日を迎えました。今年も、青空のさわやかな天気の中、高速道路で見たアルプスの輝き、そして雄大な施設の桜に迎えられる、とてもすがすがしく出勤し、緊張感をもってこの日に望んでいます。

私は毎年、この年度初めのなんとも言えない、身が引き締まる感覚、かけがえのないこの日を迎える事ができた喜びに感謝し、貴重な一日を非常に大切にしています。今年はどうな課題や挑戦が待ち構えているのか、創造を巡らし、新しい年度に立ち向かう自らの「熱い思い」はまだ健在であるか、「頭は冴え、元気で健康であるか等、行動すべき職責への覚悟を意識しています。さて、ただ今、別室で平成三十年度新採用職員入職式を行いました。ここに集う五名の新採用者諸君です。改めて皆さんと共に、我が仲間となった期待の職員諸君に、入職のお祝い、歓迎の気持ちを込めて大きな拍手を送りましょう。

ようこそやすらぎの園へおめでとう!

学生から社会人となる記念すべき最初の日、または、新たな職場での再スタートの日となる皆さんです。今日は緊張と不安ですが、希望あふれる思い出となる大切な日だとも思います。

皆さんもこんな過去を思い出し、温かく迎えますよう。当施設は本年、開設から四十周年の節目の年を迎えます。

一昨年の各事業毎の管理者配置の大編成も落ち着き、それぞれの部署で責任を持って事業推進に邁進している姿に感謝いたします。先週は保育所第一期生の感動的な卒園式も行われ、やすらぎの優しさや熱意が伝わったと思います。とても良かったです。

今年度のやすらぎの園の計画・目標は、建設等ハード面の計画は当然ありませんが、事業内容の更なる質の向上、安定運営への努力や飛躍などいわばソフト面に全力を傾ける所存です。

一つには、介護報酬改定の実行年であり、各種報酬加算への取り組みや知恵を絞っての支出の削減。

二つには、ユニットリーダー研修実地研修施設登録に向けた最終努力年度であること。三つには、人材が集まる、魅力ある職場の育成や具体的行動を行うこと。

四つには、迫る少子化を想定した「外国人技能実習生」導入の試験的実施の初年度とすること。五つには、地域の福祉ニーズに答えるべく、商業地域での新事業開設に向けた具体的行動年度とすることでありませう。

それぞれ職員の個々の技量は高く、潜在力にあふれた大切な職員です。健康に注意を怠ること無く、今年度も明るく、楽しく、地域の福祉推進に努力していきましょう。

皆さんのご支援の下、今年も着実な成果がもたらせられることを期待します。

統括施設長

中島謙二

やすらぎの園託児所 第1回卒園式

1期生 3名が卒園



3月30日、当施設の職員の子を対象とした認可外保育施設「やすらぎの園託児所」の第1回卒園式が地域交流ホール「むつみホール」で開かれました。同託児所は平成27年4月の施設全面改築に合わせ、同年10月に開設。1歳から3歳児までが対象で、開設から丸2年を迎えた今春、3歳となった子どもたち3名が卒園を迎えました。

当日は、園児のご両親の他、施設のご入居者、職員も大勢参加し、当施設開設以来初めての卒園式を盛り上げ

ました。式は青木管理者による卒園証書授与、中島統括施設長のあいさつと進み、当託児所で過ごした2年間の振り返る思い出のスライド映像では、小田和正の「言葉にできない」のメロディーに合わせて映し出される子どもたちの成長の軌跡に、涙を浮かべる出席者の姿も多くみられました。その後の卒園児のお別れの歌では、卒園児がステージに上がり(上写真、うち1名は在園児)「みんなともだち」を先生のピアノ伴奏に合わせて歌いました。入園した頃は、お母さんと離れるのが切なくて泣いていた子、お昼ごはんの頃には眠くなってしまい居眠りをしていた子、先生に抱っこばかりせがんでいた子たちが、今ステージ上で友達と手をつなぎ一生懸命に歌っている姿はとても感慨深いものがありました。ここで過ごした2年間、お母さんと一緒に通ったこの2年間のことを大きくなった時、ほんの少しでも覚えていてくれたらうれしいです。卒園児の皆さんおめでとう。また、いつでも遊びに来てくださいね。



やすらぎフォトギャラリー

当施設のさまざまな取り組みを皆様に写真でお届けします。



新人職員研修(4月)



ジャガイモの植え付け(4月)



デイサービス・新車輛納車(4月)

編集後記

学生を卒業してからすでに二十数年が経つというのに未だに時々見る夢があります(寝ている時に見る夢です)。それは、卒業論文に手を付けることをすっかり忘れていて、提出期日間際になって気が付き慌て出すというものです。半分あきらめみたいなのがあり、「ああ、もう一年(留年)か」などと思ってしまう。大概その辺で目が覚め、現実の世界に戻り、ちよつとした安心感と何でいつまでもこんな夢を見るのだろうと不思議に思うのです。夢ぐらいもつと楽しいものを見たいものです。

最近見た夢で愉快だったのは、我が妻の妹に「知り合いがいるからこれからみんな夕食を食べに行こう」と誘われて、なぜか韓国まで日帰り夕食を食べに出掛けるといふもの。ちなみに妻の妹は埼玉在住。「知り合いって誰?」「どうやって日帰りで行ってきたのか?」「何を食べたのか?」大変気になるところですが、その夢を見た本人(筆者)が全く覚えていません。もしかしたら、この難解なストーリーの物語を我が脳みそは作り上げることができなかったのかもしれない。非常に残念です。

最初の『卒論の悪夢(?)』に話を戻しますと、私の名譽にもかかわるので一応申し上げておきます(どうでもいいですね)、卒論は提出期日までに提出しましたし、「もう一年」にならずに無事卒業しています。が、思い返せば、提出期日前の一週間は非常に厳しい状況で、すでに卒論を仕上げ、正月休みのため帰省していく友人たちを尻目に、正月返上で朝から晩までアパートに籠って卒論を仕上げていました。提出期日をクリアした喜びも束の間、指導教官との面談では、開口一番、「うーん、これは論文というより概説書だね」と言われたことを良く覚えています。

ヨシタカ

※紙面上の入居者様の写真は、ご本人及びご家族の了承を得て掲載しています。

外国人技能実習生 受け入れへ

平成二十九年十一月一日の「外国人の技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護に関する法律」の施行にあわせ、外国人技能実習制度(※下記参照)の対象職種に介護職種が追加されました。これに伴い、当施設では開発途上国への国際貢献と今後の介護人材の確保という視点から、同制度を利用してモンゴル国より技能実習生を受け入れることを計画しています。モンゴルはわが国では大相撲等でも馴染みですが親日国としても知られています。同制度では、日本への入国前及び入国後においても、一定の語学能力を段階的に身に付けなければならない等厳しい要件があり、それらを満たす外国人は有能な方が多く、介護分野での実習希望者では、その国における看護師や医師の資格を有する方がほとんどであるとのこと。五月中旬には、監理団体の意向で中島統括、六波羅副統括施設長がモンゴルに出向き、受け入れ施設として実習予定者の家庭訪問(事前面談)を実施します。その後順調に調整が進むと、九月に来日し、日本国内にて一定の語学研修等を修了した後、十月から当施設にて技能実習生として就労が始まる予定です。高い志を持った実習生へのご理解と温かいご支援を何卒よろしくお願いたします。

※外国人技能実習制度とは
国際貢献のため、開発途上国等の外国人を日本で一定期間(最長五年)に限り受け入れ、OJT(職場での実務職業訓練)を通じて技能を移転する制度(平成五年に制度創設)。技能実習生は、入国直後の講習期間以外は、雇用関係の下、労働関係法令等が適応される。平成二十八年十二月末時点で全国に約二十三万人が在留している。

激走 長野マラソン



4月15日に行われた第20回長野マラソンに、やすらぎの園からもランナーが出場しました。当日は、冷たい雨の降る厳しいコンディションとなり、各ランナーは苦戦を強いられましたが、沿道の多くの皆様の声援に後押しされ、5名が42.195kmを最後まで走り切りました。選手の皆さん大変お疲れさまでした。来年は今年以上の記録更新を期待しています。

※記録は下の通りです(ゴール着順)。

- ◆ 宮川 恵祐 (短期介護士兼相談員) 3:53:43
- ◆ 岡宮 拓哉 (特養事業部次長) 4:45:27
- ◆ 田中 宏子 (柴やすらぎ/介護士) 4:52:38
- ◆ 中村 知子 (短期介護士) 4:55:09
- ◆ 六波羅 直貴 (副統括施設長・総務部長) 5:09:53
- ◆ 酒井 和美 (宿直) およそ26km 地点

オレンジカフェ やすらぎ

- ◇ 日時 : 毎月第2火曜日
AM10:00~12:00
- ◇ 場所 : やすらぎの園 (篠ノ井杵淵)

地域の縁側 いこい広場

お気軽にお出掛けください。



ボランティア懇談

二月二十四日、当施設にて活動していただいているボランティアの皆様をお招きし、毎年恒例のボランティア懇談会がむつみホールで開催されました。当日は十七名の皆様に参加され、日頃の活動に対する思いや今後の課題・提案等をお伺いしました。お話を伺う中でボランティアの皆様に通じて言えるのは、とても行動的で、何にでも前向きに好奇心をもつ会が組み立てられている姿勢でした。そして「ボランティアは何より自分のためにやっています」とのご意見はとても心に残りました。皆様が元気で若々しいのはそのためなのだと感じました。

交流会では、社交ダンス教室が行われ、特別ゲストとして米国大統領(?)も登場し、大変盛り上がりました。ボランティアさんの中には社交ダンスの経験者もおられ、軽やかなステップを披露されていました。その後の昼食会も和やかな雰囲気の中進み、笑い声の絶えない楽しい一日を過ごすことができました。

平成30年度 始動

新人職員 5名入職



新採用職員と
中沢理事長(中央右)、中島統括施設長(左)

平成三十年四月二日、新採用職員五名を迎え、平成三十年度新採用職員入職式及び事業始業式が行われました。

会議室にて行われた入職式では、中沢理事長より新採用職員に対し、高齢者福祉を取り巻く環境は様々だが、当法人四十年の歴史と実績を信じ安心して業務に励んでほしいとの挨拶があり、続いて中島統括施設長より激励の訓示を受けました。新採用職員それぞれが緊張と不安の中にも、大きな期待と希望を胸に新たな第一歩を踏み出しました。

場所を移し、むつみホールにて行われた事業始業式では、辞令交付が行われ、名前を呼ばれた職員一人ひとりが自らの決意を新たに辞令を受け取りました。

今年度はユニットケア推進三カ年計画の三年目。また、外国人技能実習生の受け入れや、法人所有地を活用した新事業の開発など取り組むべき課題は山積しています。職員一人ひとりがそれを自覚し、なすべき職責を果たして今年度四十周年を迎える施設運営を更に盛り上げていきます。

お花見の会

4月14日、春の恒例行事、お花見の会が47家族68名の皆様をお招きして開催されました。昨年は感染症の流行により中止となったため、今回は2年ぶりの開催となりました。

当日はお天気も心配されましたが、風は強かったものの薄曇りのお天気で、ご入居者の皆様は、ご家族や職員と共に千曲川の土手まで散策に出かけました。今年は桜の開花が例年より早く、施設外周の桜も見頃を過ぎてすでに花を落としていましたが、河川敷の畑では桃の花が見頃を迎え、桃花のピンク色に菜の花やたんぽぽの黄色、草木の新芽の淡い緑色や残雪の北アルプスの白色等々、一年中で最も華やかで若い生命力を感じることができる信州のこの時期ならではの素晴らしい風景を眺めることができました。土手の上では、甘酒が振る舞われ、甘酒を飲んで一息入れながら、春の柔らかい日差しの中、それぞれのペースで散策を楽しみました。



保育ニーズ地域調査実施へ

法人所有地における

新規事業開発に向け

やすらぎの園では、法人所有地(篠ノ井杵淵大門)の活用による地域福祉の向上を図るため、地域の福祉ニーズを探るべく活動を続けてまいりました。そうした中、近隣の水沢上庭地区において商業施設や新興住宅地が整備され、そこでの就業者や新たな居住者が増えたことに注目し、この地区における子育て世代への支援、すなわち保育ニーズが高まっているのではないかとの推論に至りました。特に土地柄、多くの保育所で実施していない休日保育や延長保育などには相当数のニーズが潜んでいるものと考えます。

こうした考えに基づき、一月下旬から二月上旬に掛けて、水沢上庭地区の商業施設を中心に保育ニーズのアンケート調査を実施いたしました。更に五月中旬からは、新興住宅地として整備され新しい居住者が増えた杵淵東、杵淵西地区を対象として保育ニーズのアンケート調査を実施します。これらのアンケート調査の結果をしっかりと分析してニーズの把握に努め、関係各機関からのご協力も頂きながら、法人理念である「より質の高い地域福祉社会の実現」に向け邁進していきます。